

Title	英国経済の地域的構造
Sub Title	Geographical structure of economy in Great Britain
Author	小島, 栄次
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1948
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.41, No.9 (1948. 9) ,p.493(1)- 513(21)
JaLC DOI	10.14991/001.19480901-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19480901-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19480901-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 三田學會雜誌

第四十一卷 第九號

昭和二十三年九月

## 英國經濟の地域的構造

小島 榮次

一、はしがき

本誌昨年十一月・十二月合併號所載の拙稿「米國經濟の一側面——その地域的構造」は、同國經濟が、各地方間の大規模な地域的分業に基いて、高度の地域的組織を持つといふ結論に達した。米國獨特の大規模生産の地理的形態が即ちこの地域的分業であり、同時にこれはまた大規模生産を可能ならしめて居る要因の一つでもあると考へられる旨を述べた。要するに米國を現在の如き盛大さに到達せしめた要因の一つとして、その經濟の地域的構造を擧げることが出來ると考へるのである。

ところで吾邦經濟の地域的構造はどうであらうか。それは明かに米國型とは非常に異なるが、果してそれは日本經濟にとつて如何なる意義を持つであらうか。私は他日この問題を取上げてみるつもりであるが、本稿ではさし當り先づ、日本と重要な共通點を幾つか持つて居る英國の場合を研究してみたいと思ふ。云ふまでもなく戦時戦後に多くの重要な變化が生じて居るであらう。然し乍ら現在はまだ最近の地理を明かにする

英國經濟の地域的構造

ことが困難であるから、こゝでは先づ斯かる變化の基礎となつた戦前の状態を扱ひ、その後に関しては、この方面に就いての政府及び民間の對策と共に、他日改めて書くこととする。

二、英國經濟の地域的構造

こゝに經濟の地域的構造といふのは、經濟上の特殊性を持つ國內各地域が互ひに緊密な關係を結んで、全體として一國經濟を地理的に組立て、居ることなのであるから、先づ英國各地方の經濟的特殊性を明かにする地域區劃が必要である。ところが英國のさうした經濟地域區劃は、まだ行はれて居ないやうである。唯、經濟全般を綜合的に取扱はずに農業地理のみの記述を行ふ場合に限つて、それが行はれて居るに過ぎない。(註一) 自然現象に關する綜合的な地域區劃は行はれて居るが、その場合ですら英國の學者は甚だ慎重な態度をとつて居る。(註二)

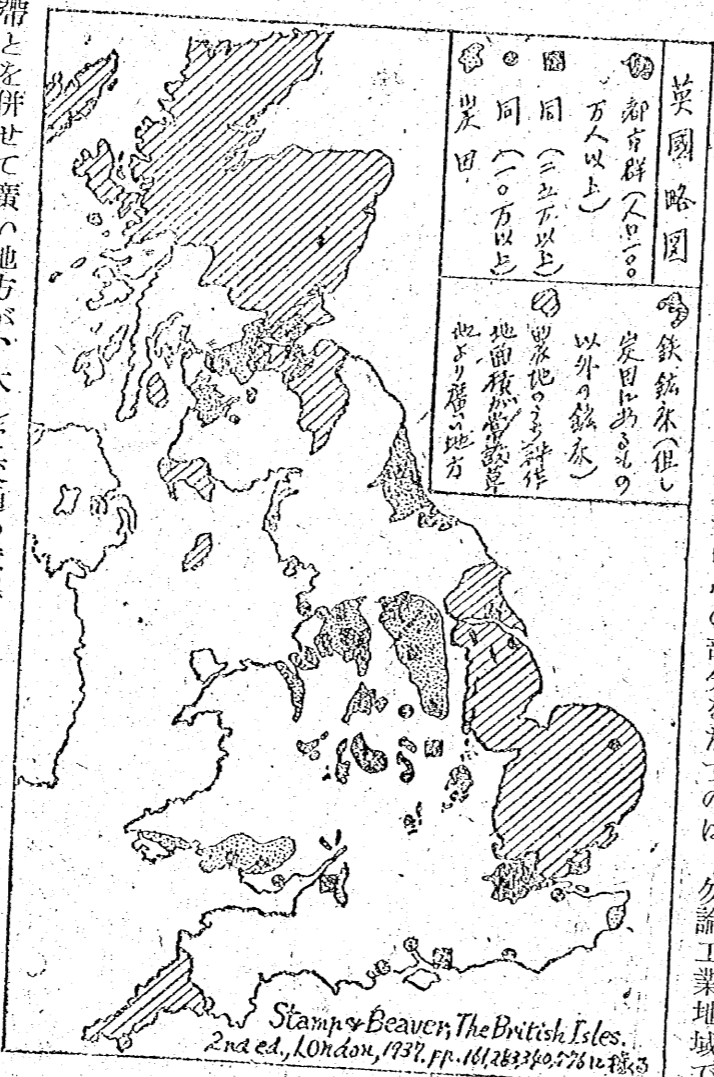
註一 然し乍ら諸種の産業が如何なる關係の下に一地方に結合して居るかけ、吾々の見地よりすれば一層重要なことであり、從つて全産業の分布状態を綜合して地域を區劃する必要があることを、念の爲め注意して置きたい。

註二 Alan G. Ogilvie (Editor), Great Britain: Essays in regional geography by twenty-six authors. 2nd edition. Cambridge, 1930. け全國を二三の自然地域に分けて居るが(そしてその中でかなりの地方は同時に經濟上でも地域を形成して居るが)それにも拘らずその區劃を示す地圖を掲げて居ない。斯かる境界の多くに就いてまだ疑問の餘地があり、もしも地圖として示されると、それが初步の教科書に掲載され人を誤らせる虞れがあるからだと云ふ。(同書、序文、pp. XIII—

XIV.)

この境界區劃の困難は、夫々の場所の特殊事情にも基くが、一般的には、英國經濟の地域的構造を特色づけて居る後述のやうな諸事情にもよる。(第三節參照) 殊に英國全土が小面積の經濟地域から成ることは、境界區劃を困難にする

る主要な事情の二つである。今こゝに英國經濟の地域的構造を記述するに當つても、多數の狭少な地域を二つ毎に取上げて居たのでは餘り長くなるので、概括的に極めて簡単に記述することとする。先づ英國經濟の地域的構造に於いて中心の部分をつなすのは、勿論工業地域である。工業地域も後述するやうに(第三節參照)多數の狭少な面積のものに分けられて居るが、その主要部分は、殆ど相續する一連の地帯に集まつて居る。即ち北はランカシア及びウエストライディングから南はウォリックシアのバーミンガム及びコヴェントリー邊りまでのイングランド中央部である。大きな地理的規模で考へるならば、この地帯を一括して工業地域と云つてもよいと思ふ。この地域とその東側及び南側の農業地



帯とを併せて廣い地方が、大して交通の障礙になるやうな山脈もなしに横つて居ることは、英國の發展にとつて大きな意義があると云へるであらう。そしてこの範圍から外れて居るのは、スコットランド低地帯・東北部イングランド・ロンドン附近・南ウエールズ及び北愛蘭の各工業地域であり、中央部と同様な但し遙かに面積の小さい工業地帯をなす。

英國經濟の地域的構造

して居る。

英國には、人口一〇〇万人以上の都市群 Conurbation (註三)が七箇所、一〇萬以上一〇〇萬未満のものが三二箇所ある。これ等のうち二、三を除いて大部分は工業都市群と去へる。(註四)これ等工業都市群が集中して分布する場所が工業地域であり、例へばランカシアからチェシアへかけての繊維工業及び化學工業を主とする工業地域、ノーサンプラントからグーラム及びミドルズブラーへかけての重工業を主とする工業地域その他がある。殊にイングラント中央部には、これ等都市群が多数集中して、幾つかの工業地域が相隣接する状態を呈して居る。

註三 このに都市群といふのは、住宅・工場・その他の建物・港・船渠・市内の公園及び遊園地等が、田園地に隔てられることなしに連続する地區のことであるが、實際には多くの場合、農業用地が多少介在する。(H. Dudley Stamp and Stanley

H. Beaver, *The British Isles. A geographic and economic survey.* 2nd ed. London, 1937. p. 574)

註四 一〇〇万以上の人口を持つ都市群は、ロンドン・マンチスター・バーミンガム・リーズ及びブラッドフォード・グラスゴウを

夫々の中心とする五地區並びにマージーサイド及びタインサイドである。英國の都市人口は全人口の八割に及ぶが、その半

は右の七都市群に居住するといふ。(Stamp and Beaver, op. cit., pp. 574-5. 参照)

尙これ等都市群は、その多くが米國の國勢調査の Industrial areas と稱せられる地區と同性質のものである。後者は、工業労働者三万人以上を有する地區で、各地區の總人口は、一九三〇年に最少地區の場合で二三人、最大地區の場合で一〇六万人であつた。米國全土にこれが二三地區あり、その人口總計は約四、四二二人であつた。(Glenn E. McLaughlin, *Growth of American manufacturing areas, Pittsburgh, 1938. pp. 51-2*)英國の工業地區總人口は判明しないが、一〇万人以上の都市群の人口合計は少くとも二千數百萬以上であると推定される。従つて、假りに非工業的な都市の人口を差

引くとしても、兩國總人口に大差があることを考へると、英國では割合に多くの人口が工業地區に居住すると云へる。

次に工業分布と最も密接な關係にある炭業の分布をみると、全國各地に豊富な石炭の埋藏があり、殊に主要な炭田がイングラント中央部の各地・東北部の海岸地區・スコットランド低地々帯・南ウエールズに分布する。重要な工業地區の多くはこれ等炭田の上か或はその附近に分布し、最大の七都市群のうち炭田から遠いものはロンドン一個所しかない。しかもこれ等炭田の多くに鐵鑛石も埋藏され、工業の發達に最も有利な條件をなしたことは有名な事實であるが、今は極めて少量の産出を見るだけである。現在國産鐵鑛石の約九割は、北はティース河附近からランカンシア・ノーサンプトンシア・オックスフォードシア等を経て、ドーシットシア南海岸に達する石灰石地帯に斷續するジュラ紀鑛石から産出される。この鑛石は大部分が中部炭田地方またはその附近へ送られ、そこでは主としてこの鑛石から銑鐵が製造される。海岸の諸地區では尙この他に外國鑛石を多量に輸入使用し、また西北部イングラント海岸に少量ではあるが良質の赤鐵鑛を産する地方があり、そこでは地元鑛石及び輸入鑛石が主として用ひられる。

製銑地帯には概ね製鋼事業も行はれ、これ等の銑鐵が國産及び輸入の屑鐵と混じて鋼にされる。ところでこの鋼を用ひて各種の金屬製品を作る工業部門は、各地方で種々の専門化を示す。而してその専門化が同時に地域的集中を齎した場合も多い。即ち、南ウエールズの鉄力・ランカンシア地方の紡織機械・シェフィールドの双物等は、その例であるが、更に斯かる地域的集中及び専門化は、他の工業部門にも多く見られる。(註五)

註五 或る一地方が全國の同一工業部門に従事する労働者總數の七割以上を占める場合を擧げてみると次の如くである。(Political and Economic Planning, *Report on the location of industry.* March, 1939. London, 1939. pp. 262-277. 數

字は一九三二年の國勢調査に基づくもの)

英國經濟の地域的構造

英國經濟の地域的構造

大ロンドン	7・7割	寫眞器及び映畫器械	7・7割
南ウエールズ	9・5	鉄力製造	9・5
グロースタシア・ヘリフアッド シア・シユロツプシア・スタツ シア・ウオリツクシア・ウ スタシア	7・9 7・4 7・3 7・2	陶磁器 眞鍮・黄色金屬の輕量品 非鐵金屬・パイプ 自轉車・自動車附屬品	7・9 7・4 7・3 7・2
ダービーシア・レスタシア・ノ ムシア・ソークオウビータバラ	7・1	レース製造	7・1
ランカンチア・チエシア	8・8 8・7 8・4	綿織物 綿織物上及び輸出向包装 綿紡績	8・8 8・7 8・4
ウエストライディング及びヨー ク市	8・1	紡毛糸・梳毛糸・再製毛糸 及びこれ等の織物	8・1
クラックマンシアン・ダン イー市・イーストロージアン エディンバラ市・ファイフ・ミ ッドロージアン・スタirling シア・ウエストロージアン	8・8	黄麻加工業	8・8
尚ランカンチア・チエシアの紡織機械製造は六・五割を占める。			

これ等の工業地域に對して、スコットランド南北の高地・イングランド北部及び東部・西南半島部・南部を除いたウエールズの大部分・ウエールズに隣接するヘリフアッドシア及びシユロツプシアの邊りは、純然たる農業地帯と云ふことが出来、更に残りのミッドランド南部から南の地方は、各所に若干の全國向工業を持つことと、恐らく中間的な地域をなすのではないかと思ふ。(註六)

註六 然し乍ら斯ういふ種類の大きな地域區劃が行かれて居ないので、私としては唯オトグルウイ教授編纂の前掲書その他に據つて、大體の推測をなし得るに止まる。

これ等の農業地帯は、工業地域に屬する地方をも含めて、やはり多くの小さな農業地域に區劃されて居る。そして工業地域の場合と同様に、これ等の農業地域でも専門化と集中とが見られ、各地方毎に種々の特色を示して居る。例へばイングランド北部及び西部とウエールズの山岳地では、氣候・地形・土壤が耕種農業にとつて不利で、従つて常設草場が多く、イングランド東部はこれに反する。麥芽の全國收穫高の三分の二以上が、サセックス東部からセント中央部へかけての狭い地方で生産される。牛の飼育と肥育は全國各地で廣く行はれて居るが、レスタシアとイーストアングリアとでは肥育だけしか行はれない。斯うした地域的専門化・集中・特殊化の例は無數に擧げられるであらう。多數の狭小な面積の地域にこのやうに地域的特色が認められるばかりでなく、前述のやうに大きく區劃した少數の廣い地域に就いても、各地域の夫々の間に或る程度の特種性を認めることが出来る。即ち中央部の工業地帯は、金屬工業・機械器具工業・織維工業・化學工業・窯業等、多種多様の部門に就いて英國工業の中心部であり、ロンドンには被服・家具・文房具・寫眞器・科學機械・醫療器具・樂器・玩具等、多種多様の都會向工業があり、更に東北部と南ウエールズでは炭坑労働者が全労働者(農・林・水・鑛・工・商・交など全産業を含む)の夫々約二・四割及び三・〇割を占めて居る。これに對してスコットランド低地帯では、イングランド中央部工業地帯と同様に炭坑労働者は全労働者の一割に達せず、労働者數から見る限り比較的多様性に富む工業地帯となつて居る。最後に北愛蘭の亞麻工業は世界的に有名である。(註七) 農業諸地域としては、イングランド東部農業地帯即ちイーストライディングから南方イーストアングリア邊りでは、小麥・大麥・燕麥・根菜類・各種家畜等、種々の作物いづれも多量に産出する豊饒

英國經濟の地域的構造

な農業地域であり、これに對して、不利な自然的條件から農地を狭く限られて居る北部スコットランドの如き地方もあり、羊が特に多い南部スコットランド高地やウェールズ等がある。

註七、Political and Economic Planning, op. cit. pp. 262-277. 参照。但しこの場合東北部と云ふのは、カンバランド及び

ダーラムだけであるから、ミッドルズバラその他ティーンズ河口を含めると事情が違ふも知れない。然しその場合に製鐵・重化學工業等の労働者が加つてもその數けさ程多くなく、従つて炭業への集中状態に大した變化はない。

斯くして全國の人口と工業は、ランカシア及びウェストライディング以南のイングランド中央部及び南部に集中して居り、この範圍外の諸地方は諸所に工業地域を持つとは云へ、全體として多少僻地の状態にあるやうに見える。従つて工業地帯も農業地帯も、これ等の地方では多かれ少かれ多様性を缺いて居るやうである。而してこれ等各地間の關係をみれば、工業に就いては、上述の如き専門化・集中・特殊化の存する地域の工業は、原料・製品の輸送費・傳統的な熟練労働力及び設備の存在その他諸種の條件に對して、一應は適當な場所に分布するといふことが出来る。農業の各地域にしても同様で、氣候・地形・土壤・都市への距離等に應じて、合理的な分布をして居る。これは、全土を多數の狭い地域に分けた場合にも、また比較的少數の廣い地域に分けた場合にも云へることである。この地方的な特殊化・専門化が、一般に能率の高度化を意味することは云ふまでもなからう。

そのみでなく、英國がイングランドの中央部以南に平野乃至低い丘陵の連續する廣い地帯を持ち、山地のみ多いスコットランド及びウェールズに對して、こゝに平地地帯を集中させた形は、旺盛な大量の經濟活動を收容する容器を持つに等しい。これまた英國の發展に有利な條件の一つであつたと云へる。斯くして分業に従事する各地域間の關係も、高い能率が發揮されるやうな關係をなして居り、こゝに高度の地域的構造が出来上つて居ると云ふことが出来る。

來る。

### 三、その特殊性

英國經濟の地域的構造の第一の特色は、その工業地域の卓越して居る状態にある。勿論面積の上でそれが大部分を占めるといふわけではなく、凡そ全土の四分の一程かと思はれるが、人口の分布及び經濟上の重要性からみてそれが明かである。これは英國經濟の産業構造に照應するもので、若し廣大な地理的規模で考慮するとすれば、國土全體を工業地域とすることが出来るかと思ふ程である。假に米國の地圖の上で、東北部の工業地帯の代りに英國が嵌め込まれたとしたら、恐らくやはり工業地帯と看做されるのではないかと思ふ。面積は米國工業地帯よりも小さい。(註八) また全地域にわたつて農地のうち草地が多く、市販の牛乳生産が農産物の主要部分を占めることも共通して居る。

(註九) 更に他の作物に就いても、兩地域ともその構成が比較的單純である。(註一〇) また兩地域とも、工業は内外の廣大な市場を目的とし、農業は地域内市場のみを目的として生産するが、しかも大量の農産物を地域外から買ふといふ點が全く同じである。

勿論、種々の相違もある。英國に羊の飼育が廣く行はれること、穀物を相當多量に生産されることは、著しい相違點である。米國工業地帯では、酪農殊に市乳生産・養鶏・蔬菜及び果物栽培の近郊型農業が大部分を占め、一部の山岳地に自給農業があるに過ぎないのに對して、英國では小麥・大麥・燕麥・根菜・肉牛等が國家の保護の下に相當廣い地域で生産されて居る。假に英國の國土が廣大で現在の國土がその一部に過ぎぬとした場合、そして他に穀物生産地がある場合、或は現在の國土の大部分が近郊型農業に使用されたかも知れない。

註八 英國の面積は約二四万平方呎。米國工業地帯の面積は不明であるが、極めて内輪に見積つても、むしろ眞實の面積から

不常に隔り過ぎて居る程であるが——三四万平方軒ある。(前掲拙稿六三頁参照)

註九 英國では市乳は農産額の四分の一以上(價額)を占む(Astor and Rowntree, *British agriculture*, London, 1938, p. 251)米國工業地帯でも農産總所得の約三分の一に近い額が酪農特に市乳生産と養鶏とから生ずる。また後者の面積の約三分の二は、土壤が耕作に不利な丘陵地であり、その大部分は牧畜に用ひられる。(H. H. McCarty, *The geographic basis of American economic life*, New York, 1940, pp. 516-7.)

註一〇 スタンプ教授に従へば(前掲書、二二二頁)狭い面積の中に、複雑な地質構造に基づく土壤の多様性、地形の複雑さ、東西及び南北の氣候の重要な相違を持つこと英國の如きは、世界中に見られないと云われるが、これも眞實であらう。然しB. O. Buchanan, *An economic geography of the British Empire*, London, 1935, p. 75. は、全國大部分の農場では穀物・馬鈴薯・根菜類・牧草が相異なる割合で栽培され、通常は羊と牛とがそれに伴つて居ると云つて居り、英國の農業に、米國の小麥地帯・北部酪農地帯・玉蜀黍地帯・棉作地帯等の間に見られるが如き著しい對照のないこと明かである。

第二の特色は、英國全土が多數の小面積の經濟地域から成ることである。これは英國に限つたことでなく、面積の狭い地形の複雑な國では多く見られる状態であるが、英國では諸種資源殊に石炭と鐵の埋藏地が分散して居り、その他各地の自然的條件及び社會的條件に相違があつて、それに應じて種々の特色を持つ小面積の地域が多數生じて居る。假に努めて大きな地理的規模で區劃しようとしても、やはり相當多數の地域に區劃されるであらう。即ち中央部に廣い工業地域を區劃し、南部にもかなり廣い農業地域を區劃することが出来るが、南ウエールズ・東北部イングランド・スコットランド低地帯等は、夫々狭くはあるがその周邊の地方と一つに區劃することは出来ない。結局、全土を一〇個所の地域に區劃することになるであらう。従來行はれて居る區劃の仕方はこれよりも一層多數の狭い地域に分けるものである。

前述の如くオーグルヴィ教授の編纂書は、二三の自然地域(北愛蘭を含まず)に分けて居るが、スタンプ教授は、全土を一七の自然地域(やはり北愛蘭を含まず)に分け、三〇の農業地域を區劃し、一三の主要工業地域を擧げて居る。(註一一)これ等工業地域の中には、地域と稱し得るか否か疑問に思はれる程小さいものもある。(註一二)而して注意すべきことは、農業地域に就いてみると、この國の農作物が品質の上で著しく多様性に富み、その點で各地域内に不統一を生ぜしめて居るといふことである。さういふ場合には、假令作物の構成その他諸事情に就いて統一性が認められ、一農業地域と看做される場合でも、一地域たる實質はかなり失はれるものと云はねばならぬ。(註一三)

註一一 L. D. Stamp, *The face of Britain*, London, 1940, p. 14. *Stamp and Beaver*, op. cit., pp. 210, 222, 241, 577. 参照。こゝに謂ふ二三の主要工業地域とは、東北部イングランド即ちノーサンプリア(テイス河下流域を含む)・北西工業地帯・ランカシア及び北部チエシア・ボテリイズ・西ヨークシア・南ヨークシア即ちシェフィールド地方・ノティンガム地帯・レスター地帯・ウオリック地方・パーミンガム及びブラックカントリー・南ウエールズ・ロンドン及び東南部イングランド・スコットランド低地帯である。

註一二 私は、地域とか地方とか云ふ場合には、相當の廣さを持ち、或る程度まで異質的な要素を含んで居り乍ら、しかもその間に統一が見られる所であるべきだと思ふ。従つて餘りに狭少な同質的な要素ばかりで構成される所には、地域といふ概念が適合しないのでないかと思ふ。地理的觀察を大規模に行ふか小規模に行ふかに従つて、同一の地表面が大きな地域に區劃されたり小さな地域に區劃されたりする相違が生じるが、地域としての面積には最小限度があると思ふ。即ちその地域的特殊性が相當の固定性を持ち得るだけの大きさである。

英國内各地の地域區劃が困難なもの、一つにはこの爲めではなからうか。大きな地域を區劃する場合、その境界線はかな英國經濟の地域的構造

り概略のものでよいが、小さな區劃の場合には、精密にこれを行ふ必要がある。

註一三、一地域内の質の不統一が、品質の傳統的な優秀さを主眼とする爲めに生ずる場合がある。例へば全國各地がその地名を冠する純粋な品種の牛を誇つて居るやうな場合である。また他の事情によつて品質の不統一が生じて居る場合もある。例へば生産費の低廉を主眼として頑健な品種の羊を得ようとし、各地の農家がやたらに交配を行った結果、すべての州が夫々獨特の品種を持ち、甚しい場合には二、三の教區だけの狭い範圍で特殊の品種を持つといふ事態が生じた。同様な事情は畑作物に就いても見られるところであつて、如何なる農産物にせよ、品質の不統一が右の羊の場合のやうに甚しければ、集荷及び販賣に關して明白に不利益を伴ふ。これと反對に、コーンマツォルでは乳牛をガーンジー種に統一して成功を収めたといふ。斯くして學者は品種の地域的標準化を主張して居る。(R. F. Stapledon, *The land, now and to-morrow*. London, 1935. pp. 24-9. Astor and Rowntree, *op. cit.*, p. 209. 参照)

次に第三の特色は、英國經濟の貿易への依存が、その地域的構造に著しく反映して居ることである。一國內の經濟現象分布とその國の貿易状態とは二重の關係を持つ。その一つは、貿易事情と國內各種經濟現象の分布量との關係であり、從つてまた間接に地域的分布との關係でもある。その二は、輸出入物資の輸送路と經濟現象の地域的分布との關係である。高度の發達を遂げた國ではすべて、この二重の關係を通じて、貿易事情が經濟現象の地域的分布、從つてまた經濟の地域的構造に反映して居るが、貿易への依存度が高く且つまた國內に原料資源の著しく不足する英國では特に著しい。而してこれ等の關係は相互的であつて、英國の場合過去に於いては國內工業の分布が有利であつた爲めに貿易が發展したといふ關係が優越して居たのに對して、現在では貿易によつて地域的分布が影響されて居る關係が著しいと云へるやうに思ふ。

例へば農業に就いては、食料の大量輸入が農業構成に影響し、從つて分布にも影響して居ることは云ふまでもない。全土にわたつて草地が多く牛乳の生産が最も主要な地位を占めるのはその爲めである。即ち低廉な穀物が輸入された結果、條件の不利な土地の耕作が放棄され、輸入品との競争に有利であり且つ自然的條件も好適な牧草農業に轉換したのであつて、最も有利な條件を持つ土地のみに穀物栽培が残つたのである。(註一四)他方、輸入農産物の輸送路と農業分布との關係では、こゝに擧げるべきものを發見出来ない。

ところが工業分布に就いては、輸出入品の輸送路との關係も重要で、殊に價格の割に輸送費の高い品物に關しては、海岸又は河港が重要な地位を占めて居る。例へばグラスゴー・ニューカッスル・ミッドルズバラ・カーディフ等いづれも石炭を輸出し、その歸荷として鐵鑛を多量に輸入し得ることから、こゝに有利な製鐵業を成立させたことは周知の事實である。石炭も鐵もないテムズ下流ダーゲンナムで、フォード工場はダーラム炭と輸入鐵鑛によつて製鐵を行つて居る。またダンディーの黃麻加工業を始めとして、棉花・亞麻・大麻の輸入原料の加工業も、主として海岸又は河港に分布して居る。

註一四、英國の農地三、〇〇〇万エーカー(一、二一四万陌)のうち凡そ一、五七〇万エーカー(六三五万陌)が常設草地、五四〇万エーカー(一一一八万陌)が荒地放牧地 rough grazing、残りの耕地のうち凡そ二〇〇万エーカー(八一万陌)が一時的草地で、合計して全農地の約七・七割に相當する土地が草地となつて居る。(Astor and Rowntree, *op. cit.*, p. 57.)

然し英國の場合、貿易と工業分布との關係に就いて一層興味があるのは、貿易事情の變化に伴つて工業各部門の分布量が變化し、この工業構造の變化と共に地域的分布も變化して來たことである。その著しい現れが即ち工業の南部への移動であつて、これは單に貿易事情の變化のみでなく、他の諸事情の變化によることも大きいから、別に第四



の特色として挙げた方が適當であらうと思ふ。

前に述べた穀物農業から牧草農業への農業構造の變化は既に前世紀から始まつたが、工業構造のそれは第一次世界大戦後に始まつた。そしてその影響が工業の分布に重大な變化を齎したのである。即ち石炭・鐵鋼・造船等重工業品及び纖維工業製品の輸出が著しく減退した爲めに、それ等製品の主要生産地であるスコットランド・東北部イギリス及び南ウェールズの炭田並びにランカシア及びウェストライディングは重大な打撃を受けた。これに加へて、南ウェールズの東北部エブール・マーサー・テイドヴィルのやうに、地元鐵礦の涸渇と輸入鐵石の競争の爲めに衰微した地方もある。(註一五)これに反して新興の自動車・航空機・電氣機械器具・その他の工業はこれ等北部及び南ウェールズの工業地帯よりも、中部以南に於いて發展が著しかつたから、(註一六)イギリス中部以南と他の地方の比重が著しく變化した。(註一七)新興工業がイギリス中部以南に興隆した原因は勿論複雑多岐であるが、炭田地方へ工業を牽引して居た原料の重要性が、輸送手段の發達や動力の電化等の爲めに減少したこと、北部炭田及び南ウェールズでは勞働爭議が多いといふ評判があつたこと、人口が中部以南へ移動し且つ英國人が一般に南部に居住することを好むこと、その爲めに中部以南では豊富な勞働力と消費市場があること、等がその最も主要なものとして挙げられやう。(註一八)

註一五 衰微した炭田地區の主要工業部門に就いて、「一九三八年六月の全國被保險勞働者數を一九二三年六月のそれと後者を一〇〇として比較すると次の如くである。(Political and Economic Planning, op. cit., p. 48)

工業部門	比率	實數
鐵力製造	四四・四	一一、二二一人
綿紡績及び綿布	五六・八	二五一、一八四
銑鐵(衝風爐)	五八・六	一四、三七九
炭坑	五九・五	七〇一、七二三
紡毛糸及び梳毛糸	六七・七	一六四、七三三
鐵鋼(熔解及び壓延)	八五・九	一三八、五八六

註一六 Alfred Plummer. *New British industries in the twentieth century. A survey of development and structure.*

London, 1937 の舉げて居る新興工業は、電力事業・電氣機械器具・ラヂオ・自動車・航空機・アルミニウム・人絹・食料品・罐詰・合成染料・甜菜糖・石炭液化・フィルム及び映畫の諸事業であるが、このうち、精鍊がスコットランドで行はれるアルミニウム・漁港や農業地や外國産肉類その他の輸入港等に分布する食料罐詰業・分布状態の明かでないラヂオ・甜菜糖・石炭液化及び映畫を除けば、一九三一年に中部以南の工業勞働者が全國に對して占めて居た割合は次の通りである。即ち電力供給事業五・七割、電氣機械器具七・〇割、自動車自働自転車等七・八割、航空機八・七割、人絹四・五割、染料〇・五割。これを見ると新興工業部門が必ずしもすべて中部以南に特に著しく集中して居るわけではない。重要なことは發展速度の差であるが、それを示して呉れる數字を持合せない。尙、甜菜糖は數字こそ示されていないが、東部の栽培地帯に工場が分布するのだから、中部以南に集中することは明瞭である。(Political and Economic Planning, op. cit., pp. 262-277 參照)

註一七 勞働省發表の被保險勞働者(一六才—六四才)の分布をみると次の如くである。

南部イギリス	一九二三年	一九二九年	一九三八年
英國經濟の地域的構造			

英國經濟の地域的構造

一六 (五〇八)

ロンドン	一八・九%	二〇・七%	二二・四%
南東部	五・九	六・八	八・四
南西部	六・八	七・二	七・五
中部	一五・〇	一五・二	一五・六
南部合計	四六・六	四九・八	五三・九
他の地方			
北東部	一一・二	一〇・七	一〇・四
北西部	一六・八	一六・七	一四・四
北部	六・六	五・九	五・五
スコットランド	一一・〇	一〇・五	一〇・〇
ウェールズ	五・八	四・四	三・九
北愛蘭	二・一	二・一	一・八
他の地方合計	五三・五	五〇・三	四六・〇
合計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

(Political and Economic Planning, op. cit., p. 45. に據る)

この表で北西部とは凡そランカシア及びチェシアを、北東部とは凡そヨークシア及びリンカンシアを謂ふ。従つて中部地方とは、大體ペンニン山脈南端から南方ウィスタシア・ウォリックシア・シーサムプトンシアに至る範圍である。但しこれは社會保險關係の行政区劃であつて、地理學上では北へも南へもより広い地方を中部地方と云ふ場合が多いやうである。

註一八 Political and Economic Planning, op. cit., pp. 46, 47. 参照。引退した實業家達が南部で餘生を送る爲めに移住することは、英人が南部を好むことを示すものであるとして居る。

斯くの如き工業地帯の變動は、他の國々にも認められる。例へば米國南部の工業勃興、白耳義南部のモンズからシヤールロアへかけての炭田地帯の衰退、等が挙げられるが、米國の場合は南部の興隆に依つて北部衰退の問題を生ぜしめて居るわけがなく、白耳義の場合に就いては私は知らないが、英國のやうな規模の大きなものでないことは確かである。斯くしてこの工業の南漸は、英國經濟の地域的構造が持つ主要なる特色の一つとされるべきである。(註一九)

註一九 人口数と地域的範圍とのいづれにも規模の大きな變化が生じたことは、次の事實に依つて窺はれる。即ち一九二三年六月から一九三七年六月までの間に、炭礦労働者は五一・三万人減少、綿業では八万人、羊毛工業では四・七万人、造船では一・八万人、黄麻工業では一・三万人減少した。(Political and Economic Planning, op. cit., p. 199.) またイングリンド及びウェールズでは、一九二二年から三二年までの間に、人口の二割以上が他へ移住した州が五、五分乃至一割が他へ移住した州が一二あつた。スコットランドでも同様な状態であつたとする。(Ibid., p. 197.)

四、英國經濟にとつてのその意義

以上をもつて英國經濟の地域的構造及びその特殊性を不十分乍ら觀察した。次にこの地域的構造が英國經濟に對し七如何なる意義を持つかを考へてみたい。然し乍ら既に豫定の紙數を大分超過してしまつたので、單にその要點だけを記すに止める。

先づ第一に、英國經濟の機能にとつて有利な條件となるべき事情として次の二を挙げることが出来る。

即ちその一つは、イングリンド中央部以南に廣い工業地帯が形成されて居り、尙南方へ擴大しつゝあることである。

英國經濟の地域的構造

一七 (五〇九)

この既成の工業地帯及びその南方の地方は平原乃至低い丘陵地帯が連続し、しかもそこには多くの炭田があり、貧乏ではあるが採掘費の低廉な鐵の豊富な埋蔵がある。この一連の廣大な土地の廣がりを持つことは、同面積の土地が狭小な幾個所かの平野・盆地・溪谷等に分かれて居る場合に比して著しく有利である。但しこれは南方の部分に關する限り、また可能性乃至有利な條件であるに止まるのであるから、自然地理上の一特色として擧げることが出来る。經濟的地域的構造上の特色として擧げることが出来る。

次に、地域的分業の高度の發達、並びに各地の自然的及び社會的條件に適した立地状態があることを擧げる。これは經濟上高度の能率を意味するものである。但しこれも高水準の國には普通に見られることなので、特色として擧げなかつた。然し乍ら地域的分布が必ずしも適地適物でない場合もある。殊に英國では重要な産業分野にそれが見られる。例へば資源涸渇の爲め衰微した重工業地域へ主として社會政策的見地から工業の地域的配置を圖することは、直接の經濟關係を考慮する限り、明かに英國經濟にとつて不利益のやうに見える。南ウエールズのスワンシー及びランネリに製鋼及び鋳力製造工場を持つて居た或る會社が、一九三五年にリンカンシアへ大規模な工場を新設しようとするに當つて、政府がその會社に對して勸告を行ひ、遂に南ウエールズのエプソールへ工場を新設することに計畫を變更させたことがある。エプソールではリンカンシアよりも生産費が高くつくことは知られて居たが、政府は南ウエールズの窮迫状態を棄て、置けなかつたのである。まことに北部及び南ウエールズの窮迫地域は、米國のそれが南部及び北部の山地であるのに引替へ、重工業地帯である爲め英國産業全般に及ぼす影響は甚だ廣汎深刻であつて、地域的分布の不調節の甚しいものと云ふことが出来る。

また地域的構造に就いても同様で、決して完全に満足すべき状態にあるわけでない。大體に於いて高度の地域的構造があることは明かであるが、その構造には短所をも伴つて居る。例へば陶土と石炭とを持つ地方の農村家内工業から發達したポッテリーイズに、今では陶土がコーンヌウォールから運ばれて居る。それにも拘らず主として傳統的な熟練の存在の爲めに、今でも陶磁器製造の八割近くを生産する。また農村が多量の輸入食糧を都會を通じて購入するが、その爲めに食料品も都會より農村の方が却つて高價なものが相當にあると云ふ。(註二〇)これ等に似た事例はまだ他にも多いであらう。斯かる物資の動きは、英國現在の諸條件を前提とすれば合理的であるが、鑛産、農産等の資源を豊富に持ち、且つまた歴史の新しい國ならば、もつと能率的な立地が生じ、一層緊密な地域的構造が出来るかも知れないのである。斯くして地域的分業も地域的構造も共に、必ずしも完全に満足すべき状態ではないと云ふべきであらう。

註二〇 スコットランドで一九三五年に都市、小さい田舎町、農村の夫々で得られる最も低廉な商品の最低小賣價格が調査されたが、羊肉・牛肉・ベーコン・ソーセイジ・挽肉・バター・人造バター・チーズ・馬鈴薯・茶・ジャムを含む多くの食料品に就いて、都市での價格の方がかなり廉價であつた。但し低廉な價格は多くの場合、恐らく品質の劣つた品物であつたのであらう。(Astor and Rowntree, op.cit., pp. 317-8.)

次に英國經濟の機能にとつて不利な條件となるべき事情として、次の二を擧げることが出来る。

先づ第一には、夫々の地域の面積が小さく、全國が多數の地域に分れて居ることである。面積が狭く地形が複雑な國土として當然の事實であるが、これは大規模な生産——單に各企業の大規模化ばかりでなく、集荷・輸送・加工・配給等すべてを大規模に組織するといふ意味での大規模生産には不利である。殊に前述の羊の品種の場合の如きは、斯うした大規模生産を目的とするまでもなく、明かに不經濟を伴ふ。また多數の工業地域と原料生産地が分散して分

布しその間の距離が短いことは、一般に輸送費の負擔を少くし従つて産業の發展に有利ではあつたが、それが米國で鐵鑛石に就いて行はれたやうな輸送設備の改善を促さなかつた。地域の面積が小さくその數が多いことは斯ういふ意味でも、英國經濟の機能にとつて不利である。

第二に、英國經濟の機能變化に伴ふ地域的構造の變化は、必ずしもそれ程満足な結果を示して居ないといふことである。英國では産業革命以來、工業構造の變化に伴つてその地域的分布も著しく變化した。即ち工業の炭田地方への集中である。また一九世紀末期からは農業構造が變化し、牧草地が増加した。これ等の變化には勿論多くの磨擦を伴つたであらうが、とに角それは英國經濟の發展と相携へて進行した。然るに一九世紀の末から、工業分布の變化は必ずしも常に英國經濟の發展を促進するやうな状態では起らず、殊に近年に至つては、若干の重要問題を生ぜしめて居る。即ち北部及び南ウエールズの工業地域の衰微・それに伴ふ慢性的な失業・放棄された工場炭坑熔鑛爐・不要となつた學校教會店舗その他の「社會的資源」の浪費が生じて居ることである。産業革命後に炭田へ集中した際の工業の移動に比べて、現代英國の資本主義的な工業の地域的移動が遙かに大きな磨擦を伴ふことは明かである。また農業方面では穀物農業から牧草農業への轉換が行はれ、その過程は戦争前まで猶進行中であつたが、耕作地が牧草地になつたにけでなく、次第に劣悪な草が蔓つて土地を悪くして居ると云はれた。してみれば表面上一應は合理的なこの轉換も、英國農業の基礎を劣弱化せしめて居るわけで、従つて地域的構造の變化も、満足すべき状態では起つて居るとは決して云へない。

最後に、以上述べて來たところから一應の結論を下すとすれば、戦争前の英國經濟の地域的構造は、十分に同國經濟の機能を促進するやうな形になつて居ないと考へさせる状態にあつた。この地域的構造は英國經濟の機能や産業構造等の反映であつたと同時に、地理的要因とも關連して生じたものである。而して地理的要因としては、小面積で地形の複雑な國土であることと、資源の分布状態殊に鑛物埋藏の分布状態とを、その最も根本的なものとして擧げることが出來やう。この要因は他の諸要因が如何に變化しても、常に或る程度不利な作用をなすものではないかと思ふが、戦前からの窮迫地域に對する政策・戦時戦後の經濟事情の變化・産業の社會化等重大な諸變化の下に、地域的構造もかなり變化したことであらうと思はれる。(昭和二三年九月二二日)

前號(第四十一卷) 七月份號) 目次

論 說

三浦梅園の經濟論……………野村兼太郎

ムムミニニデーとしての都市……………奥井復太郎

資 料

生絲恐慌と製絲業労働者の労働條件……………金子八郎

前號(第四十二卷) 八月份號) 目次

論 說

わが社會保障制度と生活保障體制……………藤林敬三

——わが國における生活保障體制の特質について——

民主主義と社會主義……………伊藤 倚 吉

——氣賀健三教授著「現代社會主義思想論」を讀みて——

伊藤倚吉君の批評に答へる……………氣賀 健 三

「アジア的生産様式」について……………松尾謙介

——マルクス草稿「資本制生産は先行する諸形態」を中心として——